

1 全体会 主催者等あいさつ・来賓祝辞

San-En-Nanshin Summit 2010 in Minamishinsyu

○主催者あいさつ

■三遠南信地域連携ビジョン推進会議会長 浜松市長 鈴木康友



皆様、こんにちは。ご紹介を賜りました三遠南信地域連携ビジョン推進会議、通称SENAの会長の浜松市長、鈴木康友でございます。

本日は、第18回となります「三遠南信サミット2010 in 南信州」へ、国の関係の皆様始め、ご来賓の皆様、そして、この地域の関係者の皆様、多数ご参加をいただきまして本当にありがとうございます。

また今回、開催に当たりましては、飯田市の牧野市長を始め、飯田市の皆様、そして開催地域の関係者の皆様に、ご尽力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

さて、この三遠南信サミットも平成5年度から毎年開催をされ、今回で18回目となるわけでございますけれども、これまで地域一帯となった発展に向けて、さまざまな議論や取り組みがなされてまいりました。平成20年度には三遠南信地域連携ビジョンが合意をされまして、推進会議事務局の設置や具体的な取り組みが進んでいるところでございます。

昨年の東三河サミットにおきましては、連携から融合へと宣言がなされ、新たなステップへ入ったという感がいたします。今、地域主権改革が大きく進展をする中で、地域が自発的に県を跨いだ格好で、これだけ広域の県境連携が進

んでいるという例は全国には見当たりません。まさに県境連携を先導するすばらしい取り組みであると確信をいたしております。

今年の3月には、産業連携に関する三遠南信地域の広域基本計画が国のご同意をいただきました。県境を越えた同意というのは全国で2例目ということでございます。

また、本年度から浜松市で運用を開始いたしました消防ヘリコプターでございますけれども、この航空消防の分野におきまして、関係地域の皆様と応援協定も結ばせていただきました。

そして何よりも、この後、牧野市長からご報告があると思っておりますけれども、国の国土交通省交通政策審議会の中央新幹線小委員会におきまして、懸案のリニア中央新幹線のルートについては、南アルプスルートが最適だろうという報告がなされました。これは飯田市並びにこの南信州の皆様だけではなくて、三遠南信地域の我々にとっても非常に大きなニュースではないかと思っております。

本年度につきましては、「地域主権時代における県境地域連携モデルの推進～融合に向けた自発的な地域づくりの実践～」ということをテーマとして掲げました。今回もこの後の全体会、そして分科会と駒を進めてまいりますけれども、全体会におきましては、「地域主権時代における三遠南信地域の目指すべき姿」につきまして、飯田市、豊橋市、そして浜松市の3市長と3商工会議所の会頭で対談を行ってまいりたいというように思います。そして、各テーマに分かれまして、その後、分科会でこれまでの取り組み、あるいは今後の取り組みにつきまして、皆様から忌憚のないご意見をいただくことになっております。

ぜひ、この南信州におけます第18回のサミットが大いに盛り上がり、成功に終わりますこと

を心から期待するとともに、このサミットを通じまして、全国に三遠南信地域の広域連携の試みというものが発信できることを期待いたしまして、冒頭のごあいさつに代えさせていただきます。

本日はよろしくお願ひ申し上げます。

○開催地域代表あいさつ

■三遠南信地域連携ビジョン推進会議副会長 飯田市長 牧野光朗



皆様、こんにちは。ただいまご紹介いただきました飯田市長の牧野でございます。開催地域を代表いたしまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は三遠南信圏域内外から大変多くの皆様にご参加いただきまして、18回目を迎えます三遠南信サミットが私どものこの南信州におきまして開催されますことを大変喜ばしく思いますとともに、大変ご多忙にもかかわらず、この南信州にお集まりいただきました東三河、遠州地域の皆様に感謝と歓迎の意を表させていただきます。本当によろしくお越しいただきました。

また、平素から三遠南信地域の振興発展に格段のご尽力をいただいておりますご来賓の方々におかれましては、大変ご多忙の中、ご臨席をいただき、会に花を添えていただいておりますことに御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、この三遠南信サミットであります、先ほど会長からもお話がありましたが、平成5

年度以来、三遠南信地域の交流と連携の強化や振興、そして発展を目指しまして、関係市町村と商工会議所、商工会が一堂に会しまして、国や県、あるいは地域の住民の皆様のご協力とご参加により、ここまで開催されてきたところであります。今回は新しく駒ヶ根市からオブザーバー参加をいただきまして、当地での開催は6回目となるところでございます。

関係する皆様的一方ならぬご尽力によりまして、全国的に見てもたぐいまれな、この強力な県境を越えた結びつきをここまで築いてこられましたことに重ねて感謝を申し上げます。

さて、昨今の地方を取り巻く情勢を鑑みますと、少子高齢化が進む我が国の総人口はこれから急速に減少し、地方圏のみならず三大都市圏の人口も減少していくという大変厳しい情勢にあるわけであります。

こうした状況下、国と地方の有り様も大きく変わろうとしておりまして、これまで大都市圏に集中してきた人材を地方圏に誘導する取り組み、私はこれを「人材のサイクルの構築」と申し上げておりますが、この人材のサイクルの構築を積極的に展開して、地方圏の活力を維持・再興するとともに、将来にわたって持続可能な地域をつくっていくことが必要不可欠と考えているところであります。

そのためには、地方の側から地域発のビジネスモデルを創造し、また、住民に最も近いところで行政を行っております基礎自治体、市町村が政策立案の主体となって広域的に連携し、そしてこれを全国モデルとして国を始め、全国に向けて提案・発信していくことが必要と思うところであります。

こうした考えの下、私たち南信州地域は一昨年以來、圏域を構成する1市3町10村が一体となりまして、総務省の提唱いたします定住自立圏構想に全国に先駆けて取り組んできているところであります。これは、生活圏、経済圏を一

にします南信州圏域の14市町村が行政区画を越えて役割分担と連携をし、定住と自立を目指して、それぞれの都市機能、生活機能を確保していこうという試みであります。

例えば、当圏域の中核病院であります飯田市立病院は、利用者の3割が周辺の13町村の皆様という状況を踏まえて、現在の規模と質を維持し、圏域を挙げた病病連携、病診連携の中核を担っているところであります。

また、産業振興におきましても、経済圏を一にするこの14市町村の行政と産業界などで構成いたします飯伊地域地場産業振興センターを拠点として、圏域全体の経済自立度70%を目指す地域経済活性化プログラムの取り組みを進め、航空宇宙や環境などの分野で成果を上げつつあるところであります。

ところで、こうした定住自立圏の取り組みにつきましても、基本的な生活機能を有する定住自立圏が高次な都市機能を有する定住自立圏と連携することも想定されているところであります。南信州定住自立圏の取り組みが県境をまたいだ定住自立圏の連携モデルとして、この高次の定住自立圏へと拡大し、天竜川、豊川流域の上流と下流が一体となって定住と自立を目指すような取り組みになっていくことを期待するところであります。

このように見ていきますと、まさにこの定住自立圏と三遠南信地域連携ビジョンというものは、その方向性を一にしておりまして、相互に極めて深い関係に位置づけられていると思うわけであります。まさに250万流域都市圏の創造につながっていくものと考えているところであります。

最近の具体的な動きといたしましては、過日、国立大学法人豊橋技術科学大学が飯田工業高校同窓会館にサテライトラボを開設いたしまして、三遠南信の流域全体を視野に入れたモデル的な教育研究活動を始めていらっしゃいます。

また、本日午前中に行われました住民セッ

ションにおきましては、南信州の住民の立場から、三遠地域との連携に積極的にかかわっていくため、「南信州交流の輪」の設立が宣言されたところであります。既にあります遠州、東三河の住民団体のプラットフォームとともに、今後の交流の深まりが期待されるところであります。

また、第3回の三遠南信しんきんサミットも、明日、当市におきまして開催されることになっております。少子高齢化、人口減少が進む一方で、リーマンショック後の世界同時不況を経て、産業構造の転換を迫られている当圏域の中におきまして、自立を目指す地域経済をサポートする地域金融機関の役割というものはますます高まっていると考えております。

もちろん、三遠南信地域連携ビジョンを強力にしていくためには、後ほどの3市長、3商工会議所会頭の対談でも触れていければと思っておりますが、平成20年代後半に全線開通を目指しております三遠南信自動車道、また、2027年に開通が予定されておりますリニア中央新幹線といった大規模な交通体制の整備が必要不可欠であります。

こうした交通インフラを基軸にして、各地域、各界、各層におけるさまざまな構想、ビジョン、取り組みが有機的に結合され、そのことが本サミットのテーマである融合に向けた自発的な地域づくりの実現につながっていくと確信しているところでございます。

平成20年度に連携ビジョンを推進していくため、三遠南信地域連携ビジョン推進会議「SENA」が発足しましたが、このように、さまざまな面から三遠南信地域のつながりが強まっていく中、SENAは平成24年度には新しい連携組織に移行することが予定されております。融合に向けた自発的な地域づくりを目指す本サミットが、より強力な組織体制づくりに踏み出させるステップになることを切に望むところであります。

本日のサミットには、行政のみならず、議会、

産業界、NPO、そして住民の皆様等、さまざまな立場の方々が数多く参加されておりますので、ぜひ活発な議論を展開していただき、今後の三遠南信の取り組みが一層力強いものになりますようご祈念申し上げ、ご参加いただいている皆様方のご活躍、ご健勝をご祈念申し上げまして、開催地域代表としてのあいさつとさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

**■三遠南信地域連携ビジョン推進会議副会長
飯田商工会議所会頭 柴田忠昭**



皆さん、こんにちは。

本日、ここに、たくさんのご関係の方々にお集まりをいただき、また、国あるいは各地からご来賓もたくさんお招きをいたしまして、「地域主権時代における県境地域連携モデルの推進」をテーマに、第18回目の三遠南信サミット2010 in 南信州が盛大に開催できますことを大変うれしく思います。また、皆様にお集まりいただきましたことに対しまして心より歓迎申し上げます次第であります。

飯田商工会議所では、今回、役員改選が行われ、私が宮島八束会頭の後を受けまして、これから先3年間、飯田商工会議所の会頭として務めさせていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

三遠南信地域の連携につきましては、大変長い歴史がございますが、この県境を越えた取り組みは、先ほど、鈴木、牧野両市長さんからもお話がありましたが、全国的に大変珍しい先進

的な活動と言われております。平成5年度に第1回のサミットが浜松で開催されて以来、今日で18回目を迎えることになったわけであります。

平成20年には三遠南信地域連携ビジョン推進会議、通称「SENA」が発足をいたしまして、「三遠南信250万流域都市圏の創造」を将来像として、さまざまな住民活動、あるいは経済活動、行政活動を行っているところであります。

具体的なプロジェクトでは、中部圏の中核となる地域基盤の形成、あるいは持続発展的な産業の集積などをテーマに掲げて活動が進む中、今回は、この後のトップ対談、さらには分科会において、各テーマに沿った熱き討議がなされるものと思っております。

特に「道」というテーマにつきましては、この南信州地域に国家的なプロジェクトでありますリニア中央新幹線の駅が実現しようとしております。本日午前中に第11回目になります国土交通省交通政策審議会中央新幹線小委員会が開催されております。午前中のことですので内容については十分に承知をしておりますが、徐々にリニア中央新幹線南アルプスルートでの開通に向けた具体的な協議が進むと思えます。

また併せまして、三遠南信自動車道につきましても着々と工事が進んでおりますが、何と申しましても、様々な事情で予算がつきにくい状況です。行政の方々はもちろんですが、私ども経済界といたしましても十分なる予算づけを行っていただくよう、これからも陳情を重ね、一日も早い開通に向けて頑張っていきたいと思っております。

いずれにいたしましても、本日これから、長時間になりますが、皆様と議論を深めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○来賓祝辞

■国土交通省中部地方整備局長

富田英治 様



改めまして、皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました中部地方整備局の富田でございます。

今日は、この三遠南信サミット2010 in 南信州が、このように大変盛大に開催されましたこと、心よりお喜びを申し上げます。また、この素晴らしい場にお招きをいただきましたことを御礼申し上げたいと思います。さらに、今日ご参集の皆様方には、常日頃から国土交通行政、そして、整備局の各種事業に大変深いご理解とご協力をいただいておりますことを、この場をお借りして御礼を申し上げたいと存じます。

先程、ご紹介がございましたように、この三遠南信サミットも18回目という歴史を積み重ね、そして、その間に着々と成果を積み重ねられてこられているわけでもあります。これはもう本当に関係者の皆様方の並々ならぬご尽力、ご努力の賜物だろうと深く敬意を表したいと思う次第でございます。

そして何よりも、これは、この三遠南信地域の連携という必然性があったのだということのまさに証明だろうと思うわけでもあります。今さら申し上げるまでもなく、この三つの地域、それぞれ自動車産業、あるいは電子工業という産業の集積があり、また、豊川、天竜川の豊かな自然に恵まれた大変大きなポテンシャルを持っている地域であるわけです。先程から、お話がございましたリニアのことも含めて、将来が大

変楽しみな地域ということでもあります。

一方で、中山間地域における少子化、あるいは人口減少によるコミュニティをどう維持していくかという、また共通の悩みも併せ持っている地域ということでありまして、この3地域の連携を深めながら、こういう問題を克服して地域の発展を図っていこうということで、一昨年、会長からもご紹介ございました三遠南信地域連携ビジョンがつけられたわけでもあります。

このビジョンのキーワードは連携と交流、そしてさらなる融合ということでありまして、例えば、産官学あるいは農商工の連携でもって新しい産業クラスターをつくっていこう。あるいは三つの地域それぞれのメディアが連携をして、それぞれの地域を紹介し合いながら、人の交流、あるいは企業の連携を後押ししていこうとか、観光資源のネットワーク化を図っていこうとか、そういう斬新な考え方、アイデアというのが盛り込まれているビジョンであるわけです。そして、何より素晴らしいのは、それが一つずつ、一つずつ実現化されているということだろうと思います。

実はこのビジョン、昨年の夏につくられました中部地方の広域地方計画の中でも、この中部地域の中におけます数少ない主要なリーディングプロジェクトの一つとして位置づけられているわけでありまして、中部地域全体から見ても大変重要なプロジェクトだという位置づけになっているわけがございます。私ども中部地方整備局といたしましても、このビジョンの実現に最大限、お手伝いをしていきたいと思っております。

私ども中部地方整備局の役割というのは大きく二つございまして、一つは、地域の安心と安全の確保、そして、もう一つが地域の活力を支えるための、いわゆる交流基盤の整備、この二つが大きな役割としてあるわけでもあります。

先程からお話が出ております三遠南信自動車道は全長100キロメートルにわたる自動車専用

道であります。現在のところ供用は、まだその約1割という状況ではございます。

今、この各地域におけます工事、あるいはその工事のための準備作業に、全力で取りかかっており、一日も早く供用を目指して頑張りたいと思っております。

また、もう一つの役割は、安心と安全だと思っております。今年7月半ばに、この地方を集中豪雨が襲いまして、がけ崩れ等で道路が22カ所も通行止めになり、1,200世帯、2,400人の方が孤立するという大きな被害が起きました。そういう際にも、極力、あらゆる形でご協力を申し上げ、この安全の確保にも努めていきたいと思っております。

実は、少しご紹介させていただきますと、その後、9月に台風9号が非常に変則的なルートで日本を襲ったわけではありますが、その際に、静岡の一番東の端にあります小山町という山間地の町で大規模な災害が発生いたしました。その際に、私どもも県と協力をして、TEC-FORCEという支援部隊を派遣いたしまして、数十人の職員が何日か、そこで泊り込んで復旧作業に向けてのいろいろなお手伝いをさせていただいております。何か事が起こったときには、そういう形でのご協力も決してやぶさかではないと思っております。

いずれにいたしましても、このサミットを契機にして、ますますこの3地域の交流と連携が深まり、地域の発展に向けて強力に進んでいきますことを心からお祈り申し上げまして、今日のお祝いのごあいさつとさせていただきます。

今日はおめでとうございます。

■経済産業省関東経済産業局総務企画部長 佐々木 正 様

ただいまご紹介いただきました関東経済産業局の佐々木でございます。局長が他用にて出席できませんので代理でまいりました。よろしくお願いたします。

本日は、三遠南信サミット2010 in 南信州が関係各位のご協力により、かくも盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。また、ご臨席の皆様には、日頃より経済産業行政に多大なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。



さて、昨今の日本経済は、皆様ご承知のとおり、急速な円高の進展や、依然として高水準の失業率など先行き懸念が強まっております、依然として厳しい状況にあると認識しております。

こうした中で、政府といたしましては、本年9月には円高およびデフレへの緊急対応策といたしまして、新成長戦略実現に向けた三段構えの経済対策というものを閣議決定いたしまして、9,200億円の予備費を使って、現在、支援事業を展開中でございます。また、10月26日には補正予算を含む円高およびデフレ対応のための緊急総合経済対策というものを閣議決定しております。スピードを重視した雇用、景気の維持ということで、切れ目のない政策を展開しようとしております。

他方、地域に対する国民の意識といたしまして、所得水準や雇用情勢といった点で地域格差の拡大を感じる割合が増加しているといった調査結果がありまして、地域の活力向上というのは喫緊の課題であると認識しております。

こうした中で、県境を隔てた3地域の皆様が一堂に会しまして、この三遠南信地域の連携・発展に向けて取り組んでおられるというのは大変有意義なものであるかと思ひまして、関係者

のご努力に心から敬意を表するところでございます。

また、平成20年には、連携の明確な指針となる三遠南信地域連携ビジョンが策定されております。さらにはビジョンの重点項目の進捗などを総合的に管理する三遠南信地域連携ビジョン推進会議が設立されまして、内閣府の地域社会雇用創造事業の採択を受けるなど意欲的に活動されております。より高い実効性を目指しましたこのような取り組みは、冒頭の鈴木浜松市長のごあいさつにもありましたが、全国でも類を見ないものでございまして、極めて高い評価を得るというものでございます。経済産業省としても、今後この大きな取り組みがますます発展されますことを注目するとともに、期待をしているところでございます。

経済産業省におきましては、産学官の連携により広域的なネットワークを形成し、地域から新事業、新製品を次々と生み出していくという産業クラスター計画を推進してまいりました。平成22年度からは企業立地促進法に基づく基本計画にのっとり、地域発のイノベーションを支援しております。

この計画に基づきまして、三遠南信地域では三遠南信地域基本計画を策定していただき、三遠南信クラスター推進会議が事業実施主体になり、浜松商工会議所、豊橋商工会議所、株式会社サイエンス・クリエイト、財団法人飯伊地域地場産業振興センターの4機関が地域における新産業、新事業の創出に取り組んでおられます。

最近では飯田地域における航空宇宙分野の海外販路開拓への積極的な活動、浜松地域では次世代環境車社会実験など次世代輸送機器分野の取り組み、豊橋地域では植物工場の展示会出品等の農商工連携の動きなど、それぞれのポテンシャルを生かした3地域の有機的な連携が加速しており、地域における新産業の創出に向けて、こうした動きが今後ますます活発化することを期待しております。

三遠南信地域は経済産業省の所管では関東、中部の両経済産業局に跨りますが、私どもとしましては、両経済産業局及び国土交通省さんを始め、他省庁とも緊密に連携をしながら、これらの関係の諸施策を総動員しまして、地域産業の活性化に向けて皆様方の取り組みを一生懸命応援させていただきたいと考えております。

今後とも皆様方のご理解、ご協力をお願いする次第でございます。

最後になりましたが、本サミットの開催に当たりまして、多大なご尽力をいただきました牧野飯田市長を始め、関係の皆様にご心から敬意を表しますとともに、三遠南信地域のますますの発展、及び本日も参集の皆様方の一層のご活躍、ご発展をご祈念しまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

本日はどうもおめでとうございます。

■長野県副知事 和田恭良 様



ただいまご紹介いただきました長野県副知事の和田恭良でございます。

本日、第18回三遠南信サミット2010 in 南信州がこのような盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げたいと思います。

三遠南信という言葉は、このサミットの開催が始まりましたころは、私ども県の中におりましても耳新しい言葉でありましたけれども、今や、すっかり三遠南信という言葉は一般社会にも定着したということございまして、これまでこの三遠南信地域の交流や連携に大変ご尽力いただいてきた皆様のご努力の賜物と心より敬

意を表したいと思う次第でございます。

ご承知のように、長野県は「信濃の国」という県歌がございますけれども、その中に、江戸時代には10州に囲まれていたとありますが、現在は8県でございます。その8県と長野県は、それぞれ県境を挟み、いろいろ工夫をされながら、お互いにさまざまな交流をされております。

ただ、やはり何と申し上げましても、この三遠南信地域の交流というものは一番突出しているといえますか、際立っているというように思っております。文化的にも、経済的にも、昔からそういう非常に強い絆があったものが、今ここに来て大変生きているという、そういう感じを抱いているところであります。

また、そうしたものを非常に象徴しているものが三遠南信自動車道の建設であろうと思っております。先般も私、その建設中の姿を視察させていただきましたけれども、一日も早く完成することを県としても大変強く望んでいるところでございます。

また、先程から皆様のお話にありましたように、リニア中央新幹線、こういった話がここ一、二年の間に急速に私たちの目の前に、現実味を帯びて現れてきているということでございます。自動車道あるいは新幹線、いずれも私どもにとりまして大変期待の大きいものでありますけれども、沿線地域のみならず、その地域の周辺の地域も巻き込んで、その地域にとって非常に役立つもの、地域の振興や発展に資するものになることを大変私も期待しております。

県といたしましても、今後、これらについて、積極的に対応してまいりたいと、このように考えております。

また、皆様には何かとご協力、また、いろいろお願いする場面もあろうかと思っておりますが、ぜひよろしくお願ひしたいと思っております。

結びではございますけれども、本日のサミット、実りあるものとなりますことを、また、この三遠南信地域がますます発展されますことを

心より祈念申し上げまして、簡単ではございますが、私のごあいさつといたします。

本日は誠にありがとうございました。